

## 3.4 茅ヶ崎の川はどうなっているの? —— 水域評価マップ

### (1) 水域評価マップの目的・考え方

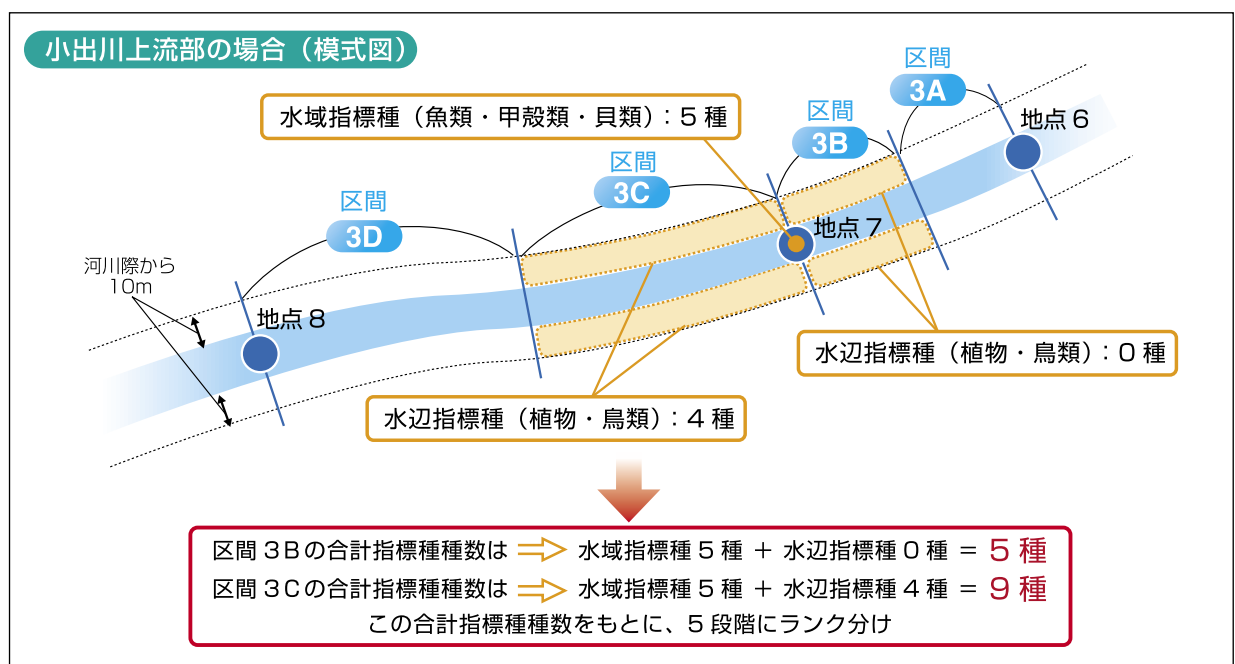
地区単位評価マップは、基本的に陸域での指標種数をもとに多様性の高さを評価したのですが、茅ヶ崎には小出川、駒寄川、千ノ川等の河川があり、これら水域における多様性の高さにも注目する必要があります。「水域評価マップ」は、3つの主要河川を対象として、その水中に生息する魚類、甲殻類、貝類の水域指標種数と、水際に生育・生息する植物・鳥類の水辺指標種数とを組み合わせ、「水域としての多様性の高さ」を評価したマップです。

なお、ここでの評価は、あくまで茅ヶ崎市内を相対的に比較したものです。

### (2) 評価方法

- 評価対象とした水域：主要河川（小出川、駒寄川、千ノ川）。細流は、水域としての規模が小さく周囲の陸域環境とより密接に結び付いており、主要河川とは指標種も異なるため、その調査結果は水辺評価マップ(p.19)に用い、水域評価マップでは対象としていません。
- 評価対象とした指標種：魚類、甲殻類、貝類の水域指標種、および河川際から10m以内で確認された水辺指標種(植物・鳥類<sup>※8</sup>)。
- 評価の単位<sup>※9</sup>：ある調査地点（魚類・甲殻類・貝類を調査した地点）とこれと隣り合う調査地点との間の水域を2等分し、等分された水域を一つの評価単位(区間)としました。この区間を指標種数によって5段階にランク分けして評価を行いました。ある区間における指標種数は、次の方法によって算出しています。

**区間 x の指標種数** = 当該区間が接する調査地点における水域指標種（魚類・甲殻類・貝類）種数  
+ 当該区間の河川際10m以内で確認された水辺指標種（植物・鳥類）種数



※8：水辺指標種には両生・は虫類、昆虫類も含まれるが、河川際10m以内ではこれらが駒寄川のごく限られた個所でしか確認されていないため、除外した。

※9：区間の決め方等については、一部現地の状況を反映して調整した個所もある。

### (3) 評価結果：水域評価マップ

#### 水域評価マップ

小出川は、中流付近3D～3F区間でランク2が続いているものの、下流に向かうにつれランク4～5と評価が高くなっています。特に大曲橋堰下を境に傾向が変わる点が特徴です。これは、大曲橋付近の堰が水域指標種の移動を阻害していることが要因として考えられます。また、河口付近の3M、3N区間は、かつてはヨシ原の広がる場所でしたが、周辺の土地利用変化に伴う流路の変更や直線化により川辺のヨシ原も失われ、ランクが低くなっていると考えられます。

千ノ川は、上流と中流の一部でランク2と評価の低い区間がありますが、小出川との合流地点に向かうにつれ、ランク4～5と高い結果となっています。市街地の中を流れていますが、河川内にヨシ等が茂っている場所もあり、下流部は比較的生物の生育・生息しやすい水域であるといえます。

駒寄川は、ランク1～2と他の河川に比べると低い結果となっています。2C、2D区間もかつてはヨシ原の広がる場所でしたが、周辺の土地利用変化に伴う流路の変更や直線化によってランクが低くなっていると考えられます。

全般的には、小出川・千ノ川の合流点付近を中心に小出川の下流部、千ノ川の下流部が水域としての多様性に関して高い評価結果が出ているといえます。

